

モーリタニア月例報告  
(2023年7月)

2023年8月  
在モーリタニア日本国大使館

主な出来事

【内政】

7月4日 内閣改造（論評）

【外政】

7月1日 モーリタニア・マリ国境地帯におけるワグナーによるモーリタニア市民の身柄の拘束：被拘束者家族の証言報道  
7月14日 アメリカを目指すモーリタニア人（報道）  
7月10日 第4回サヘル同盟総会の開催  
7月23日 「開発と移民に関する国際会議」にガズワニ大統領参加（報道）  
7月23日 モーリタニア・マリ間貿易の現状と課題（報道）  
7月25日 第2回ロシア・アフリカサミットにビラール首相が参加  
7月26日 バズム・ニジェール大統領拘束を受けた非難声明  
7月28日～30日 ガズワニ大統領の中国訪問

【経済】

7月17日 モーリタニア・マリ間送電線建設及び太陽光発電所設置プロジェクトに関するラウンドテーブル

【経済協力】

7月7日 令和4年度対モーリタニア草の根・人間の安全保障無償資金協力案件「ルクセイバ市アウェイナット保健ポスト整備計画」（引渡し式）  
7月13日 令和5年度ODA政策協議の開催  
7月13日 JICA研修生OB会の開催

【文化】

7月14日 内田大使の女性・児童支援協会訪問  
7月15日 第2回日本語スピーチコンテストの開催  
7月18日 内田大使の孤児院訪問

## 【内政】

### ● 7月4日：内閣改造（論評）

#### 1. 3つのサプライズ（4日付民間ニュースサイトLa Depeche）

- （1）今回発表された21名の閣僚のうち、15名の閣僚が交代することとなったが、3つの大きなサプライズがあった。第一に、アブデル・アジズ前大統領の元右腕・側近だったジャイ元経済・財政大臣の大統領官房担当大臣への突然の任命。<sup>【注1】</sup>
- （2）第二に、理解しがたいことだが、モーリタニアの生産部門の発展に積極的に貢献し、長期にわたる政治的活躍を願っていたカーン前経済相がこの時期に閣外に去ったこと。第三に、ガス田開発とグリーン水素事業を前進させる前にサーレハ石油相が経済相手に横滑りしたこと。後任の石油相にはシュルーカ前設備・運輸大臣が横滑りした。

#### 2. 若返りと経済シフト（4日付民間ニュースサイトInitiative News）

- （1）今日発表された新内閣は、部族的・地域的・民族的アイデンティが刻印されており、従前どおり主要部族・家族の息子たちがケーキの分け前を手にした。暗黙のルールに従い、新規入閣者は専門知識（行政当局の上層部出身）と部族的・地域的代表性を兼ねている。
- （2）新内閣の特徴は、若返りと経済部門担当チームの大幅な変更と言える。2024年の選挙を控えたガズワニ大統領は、経済情勢を好転させ、開発計画の実施を加速させることで多くのものを得ることが出来るだろう。
- （3）一方、国際的にも有名な石油・ガス分野の専門家として、当該分野を熟知する非政治的な技術者としてのプロフィールを考えれば、天然ガス産出国入りの舵を取るべき石油大臣が、なぜ経済省に送り込まれたのか、不思議でならない。なおさら、彼の後任にシュルーカ前設備・運輸大臣が就任したことが疑問を呼んでいる。他分野でも同様に、大臣が繰り返し交替することで、組織図や人材が激変し、せっかくの努力が台無しになりかねない。
- （4）なお、内務、司法、国防、外務、イスラム・基礎教育といった主権を担当する主要ポストは維持された。
- （5）また、8人の新人を除けば、新政府のメンバー全員が行政部門の経験者である。<sup>【注2】</sup>
- （6）更に、政令で大統領官房担当大臣に任命されたジャイの復帰も注目に値する。地元ブラクナ州でも、ヌアクショットでも、選挙コーディネーターを務め、首都で初めて与党が野党を追い落としたインサーフ党内で膨大な仕事をこなし、多くの人々が羨望の眼差しで見つめるこの優秀な人物にとっては待望の報酬といえる。大統領からの信任を得て、彼の地位は急上昇することになる。

【注1】 ジャイ大臣は、2003年に情報省戦略・フォローアップ・評価担当顧問、2010年に主税局長を務めた後、2016年に経済・財務大臣を務めた人物。「ア」前大統領の側近として一時期は大統領の後継者との噂もたつほどだったが、ガズワニ大統領就任に伴いモーリタニア鉄鋼公社（SNIM）総裁

に就任。「ア」前大統領の汚職疑惑でも捜査対象に挙がっていたが、証拠不十分で不起訴とされた。既にSNSでは今回の入閣を非難する声が高まっている。

【注2】 行政部門出身の新閣僚として、例えば、ファッターハ水利大臣（前石油・エネルギー省特命担当）、ディエ文化・青少年・スポーツ・議会関係大臣（前漁業省次官）、レムラービト公務・労働大臣（IMROP 研究員）、ヤヒヤ内閣官房長官（前ヌアクショット母子病院院長）等が挙げられる。

## 【外政】

### ● 7月1日：モーリタニア・マリ国境地帯におけるワグナーによるモーリタニア市民の身柄の拘束：被拘束者家族の証言報道（Alakhbar 紙）

1. （6月20日に発生したワグナー社部隊によるモーリタニア人市民の拘束に関する拘束者の家族・親族の証言）ワグナー社の要員に拘束された市民の数は23名で、23名中2名がモーリタニア国籍保持者であった（当館注：当初の報道（冒頭往電）では、モーリタニア人市民21名が拘束されたと報じていた。）。23名が拘束された場所はマリ領内のルバイズ(Loubeiz)（注：モーリタニア・マリ国境から約26km南に位置）で、ワグナー社の要員は、航空機でこれら23名をルバイズから別の地点に移送した。
2. 拘束されたモーリタニア人市民2名は、2名の内1名が顎髭を蓄え、ワグナー社からイスラム原理主義者と疑われたこと、両名が兄弟関係にあったことが原因で身柄を拘束された。ワグナー社の要員は、モーリタニア人市民2名に対し、中身が不明の薬物を注射投与した。2名中1名は死亡し、1名は現在ヌアクショット市内に搬送され、治療を受けている状況。
3. 死亡した1名の遺体は未だ遺族の下に届いておらず、葬儀さえ行っていない。マリ領内ではモーリタニア市民が何度も殺害されており、モーリタニア政府に対し、市民の保護に向けた必要な措置をとるよう改めて要求する。

### ● 7月14日：アメリカを目指すモーリタニア人（le Calam 紙）

1. モーリタニアは、2024年に石油・ガスの産出国になる準備を進めており、これにより国民の生活環境が改善し、中産階級が創出され、湾岸諸国のようなエルドラドに生まれ変わることが出来るはず。一方、特にコロナ禍とロシア・ウクライナ紛争に伴うインフレが原因で、国民の大半は幻想を抱いていない。貧弱な（経済）運営、縁故主義、乱脈経営が原因で、多くの若者が低賃金労働に甘んじている。連日報道される採掘産業は、彼らの理想にほど遠い。この2年間、何千人もの若者がアメリカへの移住を選択した。ガス田生産開始の矢先に、何故若者は非常に危険な移民を選ぶのか？
2. ヌアクショット国際空港の関係者によれば、当地発のトルコ航空のフライトには、毎便20人以上の若者が搭乗しており、我々は貴重な労働力を失っている。高級幹部や軍人でさえ、アメリカ行きのために現在の職をあきらめている。高額な旅費を払うために、貯蓄に励む者、ローンで身を崩すもの、不動産や車を売り払う者もいる。Foutah（モーリタニア南部のアフリカ系地域）には、数年前から若者の海外移住を支援する村々さえある。

若者や親たちは、ここに彼らの居場所はない、仕事を見つけるにはコネが必要、と答える。子供たちが「脱出」するために家を売ることを決めた親もいる。石油・ガスから甘い汁を吸おうとする者がいる一方、他の者は、これらにあまり期待できないことをようやく諦めた。

3. 石油とガスは、公金横領と不正に長けた者たちを利するだけで、マフィアと同じ。彼らは我々の可能性を奪い、城や宮殿を建て、高級車を乗り回しているが、その一方でイスラムの兄弟たちの多くは空腹で眠りにつく。こうした無秩序の結果、若者たちは亡命し、ヌアクショットには西アフリカ諸国からの移民が増え、あらゆる種類のビジネスを乗っ取っている。

### ● 7月10日：第4回サヘル同盟総会の開催

1. 7月10日、当地にて第4回サヘル同盟総会が開催され、内田大使（セッション3で発言）他が参加した。今次会合では、前日9日に開催されたG5サヘル閣僚会議で採択された2023-2033開発・安全保障戦略（SDS）及び2023-2028優先的投資プログラム（PIP）が今次総会で発表。また、詳細発表はなかったが13の優先事業（計15億ユーロ）も整理された。



2. 共同宣言では、22年末で計265億ユーロの事業が進行中（前年比15%増）、独立レビューの実施等、サヘル同盟のこれまでの取組を総括したうえで、「地域統合支援」、「ドナー間の調整強化」、「集合的コミットメントの増加」、「調整プラットフォームとしてのASの効率性・効果向上」、「過激主義に晒された地域への基礎的サービスの提供」の5つの勧告を提示した。
3. また、新議長を務める独より、今後サヘル同盟が取り組むべき3つの優先事項（①過激化のルーツを絶つための雇用創出・教育、②ヒト・社会のレジリエンス強化（社会保護、食糧安全保障）及び③地方当局の能力強化と基礎的公共サービスへのアクセス改善）等について説明。
4. 今次会議には、G5サヘルを脱退表明したマリを除き、モーリタニア、チャド、ブルキナファソのみ閣僚が参加（ニジェールは特使を派遣）。参加国・機関からは、総じて、各取組の紹介と継続的なサヘル支援の表明、安全保障・開発を脅かす気候変動への喫緊の対策の必要性、MINUSMAのマリ撤退やスーダン情勢等に起因する地域情勢の悪化の懸念等について多く言及があった。また、これまでのサヘル同盟の取組が具体的な成果を伴うものであったと評価すると同時に、ドナー間の一層の調整強化、優先事業の絞り込み、Quick Winsと長期的な視点の併用、及び支援投入量の増加が必要、とする発言も多かった。

### ● 7月23日：イタリアで開催された「開発と移民に関する国際会議」でのガズワニ大統領

## の発言（報道）

1. モーリタニア国内には、約10万人のマリ人の同胞達が暮らし、様々な国籍の移民達も数多く住んでいる。移民の存在は、経済・安全保障・社会的観点から、モーリタニアにとって負担となっている。
2. また、移民通過国であるモーリタニアは、スペイン経由でヨーロッパに向かう不法移民の波に直面している。モーリタニアは、警察及び沿岸警備隊の人員・設備・訓練面の強化を通じて、国境監視・管理を強化し、不法移民の波を食い止めようとしている。我々は、国境監視・管理分野におけるパートナーからの支援の恩恵を受けている。
3. また、モーリタニアの若者の間で国外へ移住しようとする動きも存在する。モーリタニアは、主要な社会的セーフティネットの整備、社会保護の強化、貧困と闘うためのプログラム、経済成長の促進、職業訓練、若者の雇用可能性の向上などにより、失業、疎外、貧困との闘いに取り組んでいる。他方、これらの戦略やプログラムの実施には多額の財源が必要。モーリタニアは、移民問題の永続的な解決は（国際社会）全員の責任と認識している。
4. 安全保障と出入国管理の観点上、（一国のみで）移民関連の複雑な問題に対する永続的な解決策を示すのは不可能。連帯の精神で、気候変動、貧困、疎外の問題を加味しつつ、経済・社会・安全保障面で危機的な状況に直面している国々や地域の状況を特に注視し、より良い支援を行うのが必須。

## ●7月23日：モーリタニア・マリ間貿易の現状と課題（Jeune Afrique 紙）

1. マリのゴイタ暫定政権に対するECOWASの経済制裁が課された2022年1月以降、ヌアクショット港を通じたマリ産綿花の海外への輸出は、モーリタニア・マリの強固な二国関係の象徴とメディアで報じられてきた。モーリタニアはECOWASから2000年に脱退しており、ゴイタ暫定政権に対するECOWASの経済制裁に縛られなかったため、ヌアクショット経由でのマリ産綿花の輸出が可能だった。ヌアクショット経由の綿花取引は、モーリタニア・マリ二国間貿易の新時代を告げるものであった。他方、様々な成果が存在するものの、なかなか軌道に乗っていない。
2. 2022年初頭の両国の貿易拡大に向けた勢いは本物だった。それまで休眠状態にあったバマコ・ヌアクショット間の貿易ルートは、ECOWASによる対マリ制裁を受けて再稼働した。両国政府ハイレベルや閣僚及び技術使節団間の協議を経て、2月25日、1,600トンの綿花を積んだマリ繊維開発企業（CMDT）の輸送トラックがマリを出発し、モーリタニアに向かった。マリ暫定政権は、長年用いてきたダカール・アビジャン経由の綿花の輸出ルートがECOWASの経済制裁により閉鎖されて以降、ヌアクショットとコナクリ経由の貿易ルートでそれぞれ3万トンの綿花供給に係る契約を結んだ。
3. 最終的に契約の3万トンには達しなかったものの、このマリ側の貿易拡大の試みは成功し、モーリタニアとマリ間の貿易拡大の道筋を開いた。同時期にマリでモーリタニア

人商人や牧畜業者が殺害され、二国間関係が緊張していた可能性があるのを加味すると、大きな前進である。

4. 他方、2022年7月にECOWASの対マリ制裁が解除されると、モーリタニア・マリ間の貿易拡大の熱は急速に冷めて、マリ産品（綿花、マンガンなど）の取引量は大幅に減少した。モーリタニアの対外貿易統計（2022年第4四半期）によると、近隣諸国の大きな取引先は主にモロッコ、セネガル、アルジェリアで、マリは含まれていない。

また、セネガル・コートジボワール経由のマリ産綿花の輸出は未だ活発である。実際、2022年～2023年のマリ産綿花の対外輸出量は39万トンと、2021年～2022年の総輸出量約77万トンに比べて激減したものの、輸出の大半はセネガルないしはコートジボワール経由で行われた。

5. さらに、セネガル・コートジボワール以外にも、全長約900kmのバマコ・コナクリルートも貿易ルートとして定着した。このバマコ・コナクリルートは全長約1500kmのバマコ・ヌアクショットルートよりも距離が短く、より実用的（道路は現在修復中）な上に、トルコの財閥企業Albayrakにより管理されたばら積み貨物船ターミナルを持ち、物品の保管や梱包面で高いパフォーマンスを誇るコナクリ自治港に通じている。更に、マリ・コートジボワール間やマリ・セネガル間の輸送コストと同水準となるようにルート整備に努めている。
6. モーリタニア・マリ間の貿易を確固たるものにする上で、行政手続きを複雑にしている言語の壁や、モーリタニア・マリ国境地帯が危険地帯であることに起因した安全保障上の問題、税関や港湾に蔓延る官僚主義、国境を跨いで行われるインフォーマルな貿易取引の大きさ等の問題の解決が必須である。

それでも、民間運送事業者の一人は、「モーリタニア領に近いGoguiの街のドライポート整備に対して投資する用意がある。マリとその背後にあるすべての国々が、多様な物流ルートを必要としている。」と述べている。

#### ● 7月25日：第2回ロシア・アフリカサミットにビラール首相が参加

25日、ビラール首相が第2回ロシア・アフリカサミットにモーリタニア政府代表として参加するべく出国した。代表団には、メルズーグ外務・協力・在外モーリタニア人大臣、バンナーヒ商業・産業・伝統産業・観光大臣、インティハー社会活動・子ども・家族大臣等が同行した。

#### ● 7月26日：バズム・ニジェール大統領拘束を受けた非難声明

1. モーリタニア外務省：モーリタニア・イスラム共和国は、姉妹国ニジェール共和国で進行中のクーデターの試みを強く非難する。モーリタニア政府は、この姉妹国における情勢の推移を大きな懸念をもって注視するとともに、アフリカ連合構成法（Acte constitutif de l'Union africaine）と相容れない違憲な政権交代を絶対的に拒否する

ことを改めて表明する。また、ニジェール共和国との安全・安定と憲法体制を維持するための協調的努力を要請する。

2. G5サヘル執行事務局：G5サヘルは、ニジェール共和国におけるクーデターの試みに対する断固とした非難を表明し、違憲な方法で権力を掌握しようとするいかなる試みに対しても、これを断固拒否することを改めて表明する。また、ニジェール共和国の安全と安定を確保し、選出された憲法体制を維持するための協調的な努力を要請する。

## ● 7月28日～30日：ガズワニ大統領の中国訪問

### 1. モ中首脳会談（中国側発表要旨）

(1) 夏季ワールドユニバーシティゲームズに出席すべく訪中中のガズワニ大統領は、28日午後、成都で、習近平国家主席と会談した（注：第31回夏季ワールドユニバーシティゲームズは、2021年に開催予定だったものの新型コロナウイルスの影響による渡航制限で延期されていたもの。）。

#### (2) 習主席の発言ぶり

- ・世界が100年来経験したことのない大きな変化に直面する中、中モ両国は互いに支え合う良き友人であり、発展を追求する良きパートナーであり続けるべき。また、「モ」が中国の核心的利益に関わる問題で揺るぎない支持を表明していることを中国は高く評価し、「モ」が自国の国情に適した発展の道を歩み、経済・政治問題への外部からの干渉に反対することを引き続き支援する。
- ・中国は引き続き「モ」に可能な限りの援助を提供し、農業技術、漁業、畜産業等の分野での協力を深め、「モ」の発展を支援する。中「モ」が「一帯一路」の枠組みで協力を強化する計画に調印したことで、各分野の交流・協力が深化・拡大するだろう。また、インフラやエネルギーなどの分野で、より多くの中国企業が「モ」と協力するよう奨励・支援している。
- ・中国は、「モ」により多くのハイレベル医療チームを派遣し、孔子学院の適切な運営を支援し、文化・青少年・メディア・地方自治に関する交流と協力を充実させていく。
- ・中国は「モ」と協力し、第1回中国・アラブ首脳会議及び中国・アフリカ協力フォーラム（FOCAC）のダカール会議の成果の実施を加速させ、中国・アラブおよび中国・アフリカの実務協力を新たな段階に押し上げる用意がある。真の多元主義を実践し、誠実さと正義を守り、発展途上国の共通の利益を守り、人類の運命共同体社会の建設を促進するための共同努力を行う。

#### (3) ガズワニ大統領の発言ぶり

- ・「モ」に対する中国の無私な援助、特に「モ」国民の健康に対する中国医療チームの貢献に感謝。「モ」は「一帯一路」政策を支持しており、経済・貿易・エネルギーなどの分野で中国との協力を強化し、モ中関係を高めていく用意がある。
- ・習主席が進める「一帯一路」イニシアティブ、「世界開発イニシアティブ」、「世界安全保障イニシアティブ」、「世界文明イニシアティブ」は、国際関係を管理する規範に

完全に合致している。これら中国の取組、真の平穩を支持し、世界の平和・安全保障・共同発展を促進し、より公平で公正な国際秩序を促進することにつながる。「モ」はこれらのイニシアティブを高く評価し、積極的に支持する。

- (4) 会談後、両国首脳は、「一帯一路」構想での協力を推進するための計画への署名式に立ち会った（署名者はサーレハ経済相及び鄭柵潔（Zhang Shanjie）国家発展改革委員会主任）。

## 2. 李強国務院総理との会談

ガズワニ大統領は、29日に北京に移動し、30日に人民大会堂で李強国務院総理と会談し、「モ」中友好協力関係およびその発展方法について議論した。会談後、李総理は、ヌアクショット市における衛生事業に必要な技術調査を直ちに開始するよう指示を与えた。また、同会談に際し、「モ」の対中債務1.5億人民元（約30億円）の帳消しを発表した。

### 【経済】

#### ● 7月17日：モーリタニア・マリ間送電線建設及び太陽光発電所設置プロジェクトに関するラウンドテーブル

1. 本件ラウンドテーブルには、サーレハ経済相、シュルーカ・エネルギー相、カマラ環境相、マリ経済省総局長代理（対外債務担当）の他、各ドナーからは、アフリカ開発銀行（AfDB）、欧州投資銀行（EIB）、EU、仏、世銀、イスラム開発銀行（ISDB）、西アフリカ開発銀行（BOAD）、セネガル川開発機構（OMVS）が参加（当館からは藤川参事官他が出席。）。

#### 2. プロジェクト概要

- (1) 本プロジェクトは、電化インフラ整備（計約7.6億ユーロ）、技術協力（約0.4億ユーロ）、プロジェクト管理（約0.4億ユーロ）から構成。インフラ整備は、第1ロット（ヌアクショット・キッフア）、第2ロット（キッフア・アイヨン及びテンタン・カーユ（マリ））、第3ロット（キッフア・ネマ）の送電線建設とキッフア及びネマの2箇所への太陽光発電所設置が主になる。
- (2) 本プロジェクト実施後には、モーリタニア遠隔地（アッサバ州、タガント州、ホード2州）をカバーすることが可能となる。また、年間600GWの送電が可能になり、モーリタニア・マリ国民計62万人がより安定的でクリーンな電気へアクセスすることができる。

#### 3. 主なドナーからの援助表明

- (1) AfDB：AfDB及び世銀が事前調査・EIAを実施しており、9月に評価ミッションを派遣し、今年12月の理事会で案件承諾する見込み。2.8億ユーロの融資を予定。
- (2) 仏（AFD）：約4千万から5千万ユーロの借款を表明。送電線建設の第1ロット及び第3ロットに融資をする。



(3) EU及びEIB：現在進行中の事前調査及びEIAの結果がEU委員会の基準を満たすことを条件に、1億ユーロの融資（インフラ整備）を表明。

## 【経済協力】

### ●7月7日：令和4年度対モーリタニア草の根・人間の安全保障無償資金協力案件「ルクセイバ市アウエイナット保健ポスト整備計画」（引渡し式）

1. 内田大使は、ジャロ（Coumba Alssane Diallo）モーリタニア感染症予防協会代表とともに、オマール（Ely Cheikh Mohamed Omar）ルクセイバ県知事及びディア（Abou Elhadj Dia）市長の出席の下、令和4年度対モーリタニア草の根・人間の安全保障無償資金協力案件「ルクセイバ市アウエイナット保健ポスト整備計画」の引き渡し式を実施した。

#### 2. 先方スピーチ要旨

##### (1) 被供与団体代表

日本政府からの約270万ウギアの援助を得て、アウエイナット保健ポストを開設することができ幸い。本計画は、遠隔地に住み、医療費負担に悩まされている子どもや女性の要望に特に応えるものである。本援助は、モーリタニアと日本の実りある二国間関係の基礎の上に成り立つものである。日本政府及び大使館に感謝申し上げるとともに、本計画の円滑な実施に協力してくれたモーリタニア当局の医療チームにもお礼を申し上げる。



##### (2) ルクセイバ市長

本日、ルクセイバ市に日本大使及び大使館員をお迎えすることができ光栄。本計画は、保健・教育分野を優先分野に掲げるガズワニ大統領の指針に沿ったものである。また、本支援は、両国の友好関係の強固さを示している。保健ポスト運営は、ルクセイバ市の市政課題であり、強化し、維持し続けていかねばならない。



### ●7月13日：令和5年度ODA政策協議の開催

- 7月13日、経済・持続可能な開発省において、令和5年度ODA政策協議が開催された。参加省庁は、経済・持続可能な開発省、漁業・海洋経済省、農業省、雇用・職業訓練省、牧畜省、DX・革新・行政近代化省、保健省、エネルギー省。
- モーリタニア側からは、我が方支援の多様化への期待とともに、可能な限り早期の円借款再開にかかる強い要望があった。経済省及びエネルギー省からは、マリ国境送電線計画での協調融資が円借款再開第一号の有力候補である旨主張された。



### ● 7月13日：JICA研修生OB会の開催

1. 7月13日夜、大使公邸にて、JICA研修への参加者約50名（課題別研修、青年研修、長期研修、ABEイニシアティブ等に参加した研修生）を招き、第1回研修生OB会が開催された。昨日7月13日の夕方、大使公邸にて、JICA研修プログラム元参加者の初顔合わせとなるレセプションが開催された。

2. 今回の会合は、過去のJICA研修生の知識や経験を交換し共有する機会であると同時に、研修の受益者全員の間に関心なネットワークを構築する機会となった。



### 【文化】

#### ● 7月14日：内田大使の女性・児童支援協会訪問

7月14日、内田大使は、ヌアクショット市内トゥジュニン地区の女性・児童支援協会（l' Association Mauritanienne pour le Bien Etre de la Femme et de l' Enfant、AMBFR）を訪問し、不安定な生活状況で暮らす孤児や女性等を励まし、交流を通じて有意義なひと時を共有した。



● 7月15日：第2回日本語スピーチコンテストの開催

7月15日、大使公邸で、「私の人生を変えた言葉」をテーマに、モーリタニア人一般参加者を招いた第2回日本語弁論大会を開催した。参加者の中には、インターネットや教育サイトを利用しながら自身の努力で日本語を習得した者もいれば、日本政府から奨学金を受けたことのある者もいた。多くの参加者が卓越した語学力で審査員にも観客にも感銘を与えた。最優秀スピーチ賞は Mme Aicha Radhy と M. Bettar Brahim に授与された。



● 7月18日：内田大使の孤児院訪問

7月18日、内田大使はヌアクショット市中心部のマリエム・ディアロ孤児院（Institut Marieme Diallo）を訪問し、孤児達のためにギターで日本の人気曲を演奏し、孤児院の入居者たちと充実した時間を共有した。

